

県内初、「公私連携型保育所」開園

益城町立第4保育所は、公私連携型保育所『ひびきのそら保育園』
(運営：社会福祉法人将友会)として新たにスタートしました。



「益城町立第4保育所」 60年の歴史に幕

3月31日、第4保育所の閉所式が行われました。
昭和40年の開所以来60年間、多くの子どもたちを育んできた同施設は、保育士・調理員不足や施設の老朽化などに伴い、3月末をもって閉所し、4月からは公私連携型保育所として新たなスタートを切ることとなりました。
式には在園児童や地域住民が参加。参加者全員で風船を空へ放ちました。大空へ舞い上がる風船に保育所の閉所を重ね、別れを惜しみながらも、4月から開園する保育園の新たな門出を祝福しました。

県内初公私連携型保育所 「ひびきのそら保育園」

4月1日、県内初の公私連携型保育所である「ひびきのそら保育園」が開園しました。
公私連携型保育所とは、自治体と民間事業者が協定を結び、協力して運営する保育所のことです。

町は、公有の土地・建物を事業者に提供し、施設運営の

基本方針を定める一方、事業者はその施設の運営・保育サービスの提供を行います。
これにより、自治体との連携を維持しながら、民間のノウハウと人材を活用し、柔軟な運営と質の高いサービスの提供を目指していくことになります。

4月4日には、地域共生センター・カタルで同保育園の開園式を開催。式には地元議員・区長などが参加し、第4保育所から移行した園児や新たに入園した園児と共に、開園を笑顔で祝いました。

これから同保育園は、第4保育所の伝統を引き継ぎながら、新たな経営方針の下、子どもたちの健やかな成長をサポートしていきます。

◀第4保育所の閉所式。参加者全員で風船を空にリリースしました



目指すのは思い出に残る保育園

4月から運営をスタートした「ひびきのそら保育園」。公私連携型保育所として、これまでと何が違うのか、これからどんな園を作り上げていくのか。園長と保育士の皆さんに話を聞きました。

公私連携型の強みとは

前田 実は、私も公私連携型保育所の経営は初めてです。これから手探りで運営方針を見定めていくことになりそうですが、行政と連携しながら、民間で培ったノウハウを生かしていきたいと考えています。

尾辻 私は民間での経験が長いのですが、この1年間、第4保育所に勤務し、町立保育所が築き上げてきた伝統ある保育のあり方を学びました。

ただ、時代が急速に変化し、保護者の生活スタイルやニーズも日々変わる中、そのニーズに柔軟に対応できることが、この新しい園の強みになるのではないかと感じています。

岩崎 開園以来、第4保育所から継続して勤務する職員、他の保育所から異動した職員、民間からの職員など、さまざまな経歴を持つスタッフが集まり、最初は戸惑いもありました。しかし現在は、職員同士が積極的にコミュニケーションを取り、それぞれの経験を共有し合うことで、チームとして良いスタートを切ることができたと思います。

新しい取り組みへの挑戦

尾辻 園児の朝の受け入れ時間を可能な限り効率化するために、これまで保護者と園児



ひびきのそら保育園（左から）

保育士 いわざきのひび 岩崎望さん	元第5保育所職員。公私連携型という新しい試みに興味を持ち、職員として志願した。
園長 ままだてついち 前田徹一さん	将友会理事長として、芦北町・横浜市の保育園の運営や公立保育所の民営化に携わってきた。
主任保育士 おつかよ 尾辻香代さん	私立保育園に長年勤務。1年前にその園が休園し、第4保育所に園児たちと共に移転してきた。

が一緒に行っていた持ち物の準備を簡略化しました。準備を一緒に行うことは、親子の大切な時間として意義があったのですが、保護者の負担になっていた面もあり、また、駐車場周辺の渋滞の原因にもなっていました。

岩崎 保護者の負担と園での滞在時間を減らす一方で、保育士と保護者とのコミュニ



ケーションの質は向上するよう心掛けました。その結果、駐車場の混雑も緩和され、園児の気持ちの切り替えも早まり、長時間泣く子が減りました。保護者と園児も、朝の時間を有効活用できるようになり、取り組みの効果を感じています。

尾辻 園庭の使い方についても見直しを行い、これまでの年齢による遊具の使用制限を撤廃し、園児が自由に遊具を使えるようにしました。

岩崎 もちろん、園児の安全確保を最優先としています。子どもたちが園舎全体を伸び伸び使って遊ぶようになって良かったと思います。

目指す保育園の形は

前田 私のモットーは、「楽しいところには人は集う」です。職場も含め園全体を楽しく居心地の良い空間にすることで、自然と人が集まってくる場所にしたいと考えています。子どもたちの笑顔と笑い声が絶えない保育園を目指していきたいですね。

尾辻 第4保育所の先輩方から安心して園を託してもらえよう、これからも努力していきたいです。また、この園で育った子どもたちが将来、園での思い出を振り返り、誇りに思ってもらえるような保育園を目指して、職員一丸で頑張っていきたいです。

町は、「益城町立保育所のあり方検討委員会」の答申を踏まえ、町立保育所運営の見直しを進めています。関連情報については随時お知らせしていきます。詳しくは、町ホームページをご覧ください。



問 ども未来課 保育係
☎286・3117